

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市中部地域療育センター 児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年11月4日	～	令和7年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	123 (回答者数)	71
○従業者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年11月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23 (回答者数)	21
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんを理解し、お子さんに合わせた支援がされていること	お子さんに分かりやすい環境設定をし、視覚化が工夫されている。	・アセスメント力を更に向上させていけるよう、通園内や他課からの研修を継続的に行っていく。 ・支援の引き出しを増やせるよう、通園内での職員の他クラス見学を継続していく。
2	個別支援計画に沿った支援が行われていること	個別支援計画は、職員で共有できるよう表にして、保育前に確認している。 作成時には、全てのお子さんに評価表を用いてアセスメントし、クラスミーティング等で確認している。	お子さん個々に合わせた支援について、主任等がクラス保育やミーティング内でアドバイスを行っていく。
3	お子さんが、安心して楽しく通所していること	保育前には、クラス職員でその日の流れ等を確認する。 保育後には、その日の保育を振り返り、ミーティングや記録作成を行い、次回の保育に活かせるようにしている。	・上記と同様。 ・よりお子さんに合わせた支援ができるよう、職員の育成を継続して行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会やきょうだいの支援	単独週5クラスには保護者会組織を置いているが、保護者の要望もあり、主だった活動を行っていない。 きょうだい支援については、今年度より弟妹預かりを本格実施している。また、親子通園において、兄・姉の保育参加を行ったが、親子通園のみの実施となった。	・弟妹預かりの継続と、利用範囲の検討を行う。 ・親子通園での保育参加の継続。 ・単独週5クラスでの、きょうだいの行事への参加の検討を行う。
2	地域支援、地域連携	単独並行通園児は年長児のみ就園先への訪問を実施しているが、通園全体の職員体制が厳しく、他学年では実施できていない。	・就園・就学先の先生を対象にした勉強会の継続。 ・単独並行通園クラスでの、年長への巡回を行うための体制の検討を行う。
3	保育空間	建物の経年劣化や汚れ等もあり、修繕を行っているが、対応に時間がかかることもある。 職員の業務量も多く、保育物品の手入れに、十分な時間をかけることができない。	・大掃除、日々の清掃は継続して行う。 ・保育物品の見直しや買い替え等を適宜行う。